

今年もどうぞよろしく

会長 合原 一夫

平成も早や9年、平成最後の1桁の年、昭和1桁生まれの者にとって何やら感無量のような気がします。OMCにとって昨年は例会場の変更や公開映写会問題など大きな転換の年でありました。公開映写会も現在進めている大阪市立図書館との共催の話が実現すれば、大阪の映像界にとっても画期的な年になると思います。いずれにしましても今年も平成1桁最後の年としてガッツある年をと念願しております。本年もどうぞよろしく。

1月例会のお知らせ

1月例会は第4土曜日25日18時、阿倍野市民学習センターにて寒い時期ですが月1回の楽しい例会です。お待ちしております。
 作品の方もどうぞよろしく。

OMCの皆さん 明けまして
 おめでとうございませう

今月のOMCニュース担当 関 剛

いつまで経ってもトンネルの出口が見えない史上最悪の不景気。4月から消費税が5%になれば、なお一層深刻さが増すだろうと予測されます。今年もまた暗い世の中になることはほぼ間違いないでしょう。しかし我々の映像の世界は世相に毒されることなく、繁栄に向かって前進を続けて行きたいと願っています。それには皆様のご協力が必要です。今年もどうぞよろしく。

◆12月例会レポート

年末で皆さんお忙しいのか集りが悪く、たったの9名でした。今年の課題は、例会場に25ある椅子を、一度満席にしてみたいですねえ。皆さんの活力に期待します。

出席者：有村、井田、江村、岡本、上総、合原、関、花岡、前田の各氏。

◆上映作品

1. デジタルテープのダビングテスト 8分40秒 前田茂夫さん
デジタルカメラが出現して以来、カメラ雑誌などでは何度ダビングを繰り返しても画質は劣化しないと毎月のように書いています。それが本当かどうか、前田さんが今井さんの協力を得て実験された映像です。
まず最初はデジタルで撮ったオリジナルを、2台のVX-1000をデジタルコードでつないで編集し（マスターテープを作る）、そのままS-VHSにダビングした画面。二番目は、そのマスターテープをデジタルで更に4回ダビングを繰り返して、それをS-VHSに移し換えたもの。つまりデジタル→デジタル×5回→アナログの画面。三番目はデジタル→デジタル×10回→アナログの画面。四番目は、デジタル→デジタル→アナログ→アナログ×2回の画面。つまり一番目で出来たS-VHSテープを更にS-VHS同士で2回ダビングを繰り返したものです。ここでテストテープは終了です。
結果、三番目までは、さすが定評どおりの綺麗な画質。ほとんど見分けはつきません。しかし四番目は前田さんの青いクレジットに無数の色ノイズが現われ、本来なら黄色の花がグリーン系に変色、一枚一枚くっきり見えていた屋根瓦の輪台部もボヤケていました。
暮れにはデジタルデッキも発売になったことです。要するにこれからは、作品の手直しなどはデジタルのマスターでおこない、それを例会用のS-VHSに移し換える作業が必要だとわかりました。ともあれ、面倒なテストテープづくりをよくぞやったもの、と前田さんの努力に感心することしきりです。
2. メタリック・ライフ 5分 有村博さん
金属の構造物で作品を構成した。とご本人の弁。ところが金属以外の物が画面の大部分を占めるところが何箇所がありました。鉄塔の10カットは少し多いように思います。
3. アーバン・リゾート山&海 6分50秒 関 剛さん
神戸のハーブ園とハーバーランド。撮影の箇所だけを指定された、他クラブの撮影会のものです。例のごとく音楽のリズムに合わせて編集してあります。題名のリゾートと言う意味がこの撮影場所にあてはまるかどうか、ちょっとした論争が起きました。
4. 雲南紀行 第一部 大地を行く 15分30秒 合原一夫さん
雲南の省都昆明から400キロ離れた大理に到着するまでの、沿道や農村風景を記録した紀行作品。撮影が目的のツアーを特別に組んで行かれたのか、バックツアーでは決して見ることでできない所まで立ち寄って人々の暮らしを記録されています。わかりやすく、おだやかなナレーションがこの映像に良くとけこんで、見る者を画面に引き込んでいく、みごとな紀行作品。第2部、第3部と出てくるのを期待しています。

例会終了後、いつもは喫茶店組と居酒屋組とに分かれて二次会を楽しんでいるが、12月例会でもあり忘年会を兼ねて皆で軽く一杯やりましょうと、ほぼ全員が居酒屋組に合流し、ビデオ談義に時のたつのも忘れて楽しいひとときを過ごした。8ミリフィルム時代と違って、ビデオ機器のハードな話だけでも結構話題が尽きないもので、聞いているだけで勉強になる。最近発売されたソニーの業務用デジタルデッキ、さて誰が一番先に買うでしょうか……？